

建設業経理士25回（原価計算）過去問ゼミ

令和2年9月3日

①過去問ゼミの学習方法

既に24回までの過去問ゼミ確認済んでいる方
→25回のみ確認

今回新たに過去問を実施する方

→10回～19回までの過去問ゼミ（網羅型）確認
24回以降は、個別型です

②過去問題集について

TAC（1,800円）、ネットスクール（2,000円：簡易テキスト付）のいずれかを用意した方がよいと思います。

建設業経理士のサイトでも無料で問題はダウンロードできますので、解き方のみ当社の講座で確認するのであれば（当社の講座は解答は講座内で説明しており、解答として作成はしておりません）特に必要はありません。

TACの最新号では16～25回の問題集なので、15回以前は建設業経理士のサイトからダウンロードして下さい。

③予想論点

過去問の傾向と予想を用意しております。参考にしてください。

④記述問題

模範解答は、簿記上級者・公認会計士合格者などが複数人で3時間以上かけて作成しています。本試験では、「主語＋述語＋さらに（例えば・具体的には）」作戦でいきましょう。

<第1問>

問1→国土交通省告示に示されている材料費の定義を説明しなさい (250文字)

★本試験での対応→主語+述語

国土交通省告示に示されている材料費の定義は、建設現場内で使用する物品の消費額である。仕訳にたとえてみます。

①建設用材料の購入 (100,000円)

材料貯蔵品 100,000 / 現金 100,000

②建設現場への払出 (20,000円)

未成工事支出金 20,000 / 材料貯蔵品 20,000

10点から12点

計算方法には「すくい出し方式」などもある

これで10点満点の5~7点はあると思います

問2→品質コストの分類について説明しなさい

過去問で既出なので、ここは模範解答に近い回答が望めます。

過去問の確認ができていない場合は、以下のような解答で2点でも3点でも積み上げてください

建設業として、完成した物件に対する品質を保証することは重要であり、その品質保証に係るコストは以下のようなものがある。

①材料の検品体制にかかるコスト

②現場でのチェックにかかるコスト

③引渡し前のチェックにかかるコスト

④引き渡し後にクレーム対応する場合のコスト

引渡し後のクレームは信用低下も含め目に見えないコストも発生するので、できるだけ内部のチェック体制を強化する必要がある。

これでも5点くらいはあると思われます、

記述式試験において空白が多いよりも、ある程度書けると安心感が生じ、残りの問題に前向きになれます。

建設業経理士試験は発表まで時間があります。各社の解答速報などを見ると、「少しでも書いておけば良かった」となります。ぜひあきらめずに加点目指して頑張ってください

<第2問>

8点確保

1、2、4は正解したい

3は、長期正常は販売計画にもかかわると思えば対応可能です

5はイメージしにくいですね。

予定操業度 240 日 工事間接費予算 2,400,000 円

予定配賦率@10,000 円

ある製品が4日でできた。40,000 円の原価。

実際には 480,000 円の遊休設備があった。

再計算すると $(2,400,000 - 480,000) \div 240 = @8,000$

$8,000 \times 4 = 32,000$ 円

∴アイドルコストの一部が配賦される

∴正しい

<第3問>

できれば満点 14 点 悪くても 10 点

問 1,2 (5 点)、問 3 (4 点) で計算

101 を例に説明します

直接材料費 294,000

直接労務費 $1,200 \times 40 + 1,300 \times 60 = 126,000$

製造間接費 $4,800 \times 40 + 4,600 \times 60 = 468,000$

合計 888,000

進捗率 $888,000 \div 1,480,000 = 60\%$

収益 $1,800,000 \times 60\% = 1,080,000$

利益 $1,080,000 - 888,000 = 192,000$

<第4問>

じっくり時間かけよう。できれば満点 16 点

問 1

固定製造間接費は埋没原価

∴

自製 $2,900 \times 1,000 = 2,900,000$ 円

購入 $3,000 \times 1,000 = 3,000,000$ 円

検収費 200,000

節約△250,000

→2,950,000

購入は 50,000 円不利

問 2

自製 $2,900 \times 1,000 = 2,900,000$ 円

購入 $3,000 \times 1,000 = 3,000,000$ 円

検収費 200,000

製品 Q 利益 → $3,720,000 - (900 \times 1.3 \times 1,000 + 2,000 \times 1.2 \times 1,000) = 150,000$

利益はコストのマイナス要因

→ $3,200,000 - 150,000 = 3,050,000$

購入は 150,000 円不利

<第5問>

材料Qは本試験では間違え可能性高い

従って、労務費・外注費・経費・人件費・差異分析3つ

4点×7=28点は時間かけてもいいので確実に取ろう

時間があれば材料をじっくり計算し、未成工事支出金を解答する手もある

計算用紙を参考にしてください

★役員の件は質問多いので説明します

役員報酬 600,000 円（一般管理費と工事原価）

工事関連の時間 80 時間

一般管理の時間 120 時間

工事関連は 1.5 倍

∴ 工事 120 : 一般管理 120 → 一般管理費（原価報告書対象外）300,000、原価 300,000

300,000 円を 103（10 時間）、104（50 時間）、105（20 時間）に按分

37,500 円、187,500 円、75,000 円

となります

悪くても 24 点は欲しい

	悪い場合	良い場合
1 問	10	12
2 問	8	8
3 問	10	14
4 問	16	16
5 問	24	28
合計	68	78

25 回は合格率 23.1% と少し低め程度なので、第一問は「何かが書けている」とそこそこの点数があった、と考えればよいと思います。